

# スクールホッターライン

## 笑顔、満開!

from 豊山小学校

四月七日(月)、豊山小学校に、ぴかぴかの新入生が入学してきました。春らしい穏やかな天候に恵まれ、満開に咲き誇る桜が新入生を出迎えました。正門の案内看板前での親子の記念撮影では、ちよつと緊張気味の中にも、新入生の笑顔がほころんでいます。本年度は六十一名の子どもたちが入学し、二学級の編成となりました。講堂の横に学級編成名簿が貼り出されており、親子で一生懸命自分の名前をさがしていました。

式では、校長先生から励ましの言葉をいただきました。「先生の話をよく聞き、本を読むこと」「運動はできなくてもつらくても、あきらめずに続けること」「友達の気持ちに気付いて仲よくすること」という三つのお話がありました。とても大切なことばかりです。

教育委員会や、西枇杷島警察署員の方からお祝いの言葉もいただきました。どの子もきらきらと目が輝いていて、頼もしく感じられました。

入学式の後には記念撮影、そして、初めての教室で、担任の先生よりお話を聞きました。明日からの登校が待ち遠しい様子で、どの子も真剣でした。

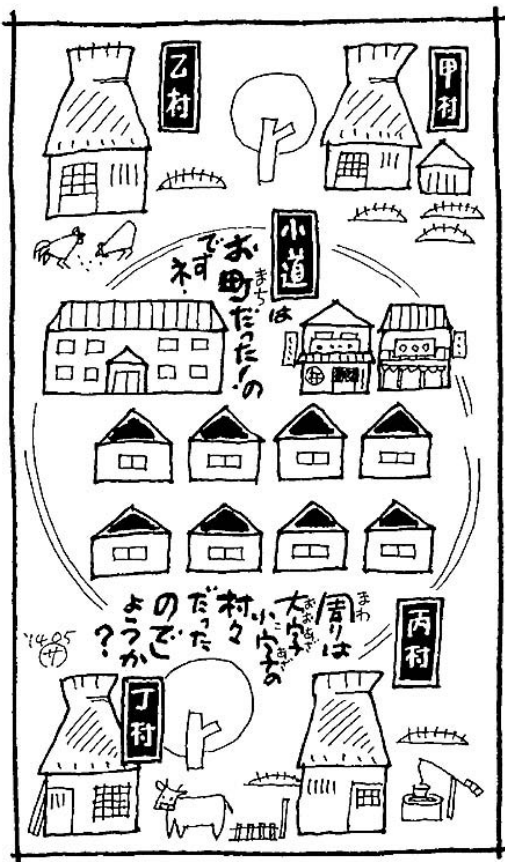
こうした節目を一つずつ経験しながら、子どもたちはたくましく成長をしていきます。小学生としてこれから学ばなければならぬことは、たくさんありますが、子どもたちは、確実に一歩一歩、階段を上がっていつてくれると信じています。

今日の良き日の新鮮な気持ちを大切にして、立派な小学生へと成長していつてください。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。



### 第百六十六話

### 小道町の思い出



小道は商店も保健所も衛生業も母子寮もあり、同世代の子がたくさんいて、小道町と呼ばれていました。

町民だけの運動会があり、夏休みのラジオ体操はほとんど毎日ありました。出席した判の数に応じてもらえる賞品のトンボ鉛筆や、すかして太陽が見える下敷きをもらうのが楽しみでした。

週に一度公民館に習字の先生が来てくださいました。新聞紙を広げて何度も字を書く紙が破れてしまいました。

家の間取りは全て同じなので、同じ戸を空けていけば、はるか彼方まで筒抜けになることもありました。空港が近いおかげで破れたフェンスから空港内にもぐりこみ、昔の戦闘機の隠し場所の小山の近くまで行き、つくしやお花を摘んだりして、よく叱られたものです。

小学校三年生になったころ、高層マンションができるから出て行かなければならないという話が持ち上がりました。次々に人が減り、我が家も引越すことになりました。幸い町内の青山に残ることができました。

現在その小道町はグラウンドやプールになり、百戸を超える住宅地だった面影はどこにもありません。

今は昔の物語です。  
(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました)



まなびすと

まなびすと